

第85期 株主の皆さまへ

平成16年4月1日から平成17年3月31日



証券コード 5991

NHKニッパツ

日本発条株式会社

当社第85期事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期における日本経済は、下半期から原油・原材料価格の高騰などにより景気は足踏みしたものの、堅調な輸出や設備投資に支えられ、緩やかながら回復基調を維持いたしました。

当社の主要な得意先であります自動車産業は、軽自動車の販売は増加しましたが、小型乗用車の減少と排ガス規制に伴う需要の一巡によるトラック販売の大幅な減少により、国内販売は5,821千台で前期比1.2%の減少となりました。しかし、完成車輸出は欧州向けを中心に好調を維持し、4,979千台で前期比4.3%の増加となりました。この結果、当期における国内の自動車生産台数は10,617千台で前期比2.5%の増加となりました。

また、もう一方の主な得意先であります情報機器関連産業は、下半期からデジタル家電の需要増に支えられ、HDD(ハードディスク駆動装置)関連は好調に推移しました。

このような状況の中で、当社は業務の効率化を推し進め、一層の収益構造の改革に取り組むとともに、グループで総力をあげて事業基盤の強化に努めました。

懸架ばね部門では、米国のニューメーサーメタルス社がスタビライザの増産のため平成18年1月稼働に向け工場を建設しており、また中国のこうしゅうにっせいだんこう広州日正弹簧有限公司はコイルばね、およびスタビライザの増産のため平成18年2月稼働に向け工場を拡張しております。精密ばね部門では、中国拠点の自動車エンジン用バルブスプリングを生産するこうしゅうにっこうきでん広州日弘機電有限公司が平成17年1月より、HDD用サスペンションを生産するNATペリフェラル社は平成17年2月より量産を開始しております。

以上のように増産体制を整える一方で、当社は活発な営業活動を展開した結果、当期の売上高は202,319百万円で前期比17.2%の増収となりました。

また、収益面では売上数量の拡大に加え、徹底した生産性向上、合理化・原価低減活動の展開により、経常利益は12,068百万円で前期比81.2%の増益となりました。当期純利益は6,686百万円で前期比59.3%の増益となりました。

目次

ごあいさつ	1
製品バリエーション	3
事業概況	
懸架ばね部門	5
シート部門	6
精密ばね部門	7
産機・情報セキュリティ部門	8
海外部門・研究開発部門	10
決算情報	
単独情報	
貸借対照表	11
損益計算書	12
利益処分	12
連結情報	
連結貸借対照表	13
連結損益計算書	13
連結キャッシュ・フロー計算書	13
株式概況	14
役員・株価の推移	14
株主メモ・会社概要	裏表紙

なお、当期末の利益配当金は、昨年12月にお支払いしました中間配当金と同じく1株につき3円といたしました。

平成17年度の日本経済は、緩やかな回復基調が継続すると予想されますが、原油・原材料価格・為替の動向など不透明な要因があり、当面、調整局面が続くものと思われまます。

当社の主たる得意先であります自動車産業は、国内販売が雇用環境の改善、新型車投入やモデルチェンジによる市場活性化効果によりおおむね堅調に推移すると予想されます。また、輸出の堅調な伸びも見込まれます。従いまして国内の自動車生産台数は、前期に比べ増加することが予想されます。世界市場における日系車のシェアは今後とも拡大すると思われまます。

一方、情報機器関連産業におきましては、一部の品目については調整が続くものの、HDD関連などは世界的な需要の拡大に支えられ、成長が持続するものと予想されます。

このような状況のもとで、当社はお客様に満足いただける製品をいち早く市場に投入するとともに、世界トップ水準のものづくりを実現し最高品質の製品を提供する一方で、開発段階からの原価低減、新事業の創出体制の強化、人材の育成に努めてまいり所存であります。またグループとしての総合力を最大限に発揮するために、事業別戦略の展開と経営資源の最適配分を実践することにより、戦略的なグローバル連結経営の推進に努めてまいります。

株主の皆さまのご支援に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも一層のご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月

取締役社長

佐々木 謙二



ばね・シートから情報・産業機器までの ワイドバリエーション

トラック用板ばねの生産から事業を開始したニッパツ。自動車産業の成長とともに、生産品目もその種類と分野を広げ、自動車のいろいろな機能を支える製品を生産しております。

また、ニッパツの技術は自動車関連のみならず幅広いジャンルで活躍しております。マイクロメートル単位のメカニカルな部分を受け持つ精密ばね製品、IT(情報技術)の進展を支えるHDD用サスペンション、スペースを有効利用できる二段・多段式駐車装置、さらにエレクトロニクス技術を駆使した情報セキュリティ製品など、いずれも常に新しいニーズに応え、あらゆる分野にその多彩な技術で貢献しております。

ドライバーシート

乗員のホールド性や体圧分布のバランスが良く、長時間運転しても疲れにくいドライバーシートです。



懸架ばね

高応力化により軽量化を図った各種懸架ばね。コンパクトなスペースにレイアウトできる「たる形ばね」。走行安定性と乗り心地向上に優れています。



金属ベローズ製品

メンテナンスフリーかつ抜群の耐久性を備えた金属ベローズ製品群。ガスプリング、油圧アクムレータなどとして多方面で活躍しています。



電動サンシェード

リヤウインドウ用で車内への直射日光を遮ります。開閉が自動で行える高級感のある製品です。

HDD用部品

情報通信機器には高い精度と品質をもつ精密ばね・プレス品、化成品が使われています。中でもHDDのヘッドを支持するサスペンションやディスクを押さえるクランプリング、ガスケット用の薄物シート状ウレタンなどは高い評価を得ています。



駐車装置

限られた駐車スペースを有効利用できる二段・多段式駐車装置です。マンションやテナントビルに広く利用されています。



線ばね

バルブスプリングやクラッチ用ばねなど車の多くの場所で使用されています。



スーパーシール・スーパーシート

当社独自の製造技術をベースとした特殊ウレタン製品です。防水、気密、吸音などの用途に幅広く利用されています。



キービカス

偽造防止効果の高い機械認識ホログラムを利用したビカスは、警備機器などハイセキュリティ分野で使用されています。

懸架ばね部門

主な営業品目

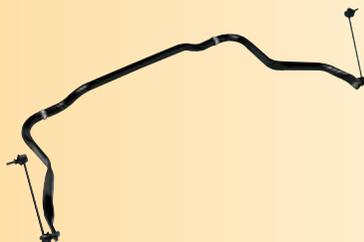
板ばね、コイルばね、スタビライザ、トーションバー、スタビライザリンク、アキュムレータ、ガススプリング、サスペンションアーム、スタビリンカー



L形コイルばね



たる形ばね



スタビライザユニット



アキュムレータ

懸架ばね部門の売上高・構成比



会社を持ち、常に市場ニーズを取り入れて世界トップレベルの技術力、開発力、品質管理体制を維持していることであります。

特に今期は、増大する東南アジア市場を見据え、NHKスプリング(タイランド)社においてサムロン工場をウェルグロー工場へ集約し効率化および能力増強を行いました。

一方、自動車の軽量化と性能向上ニーズに応えるために開発した、高強度材料を使用している板ばね・コイルばね・中空スタビライザは、

当部門は、優れた技術と生産体制により、市場において安定した評価と高いシェアを確保しております。当部門の強みは北米、南米、欧州、タイ、中国、台湾およびインドに12の関連

国内外の自動車メーカーに採用され順調に売上を伸ばしております。

乗用車の乗り心地の改善に対して大きな効果がある「L形コイルばね」は、国内をはじめ米国、欧州でも採用され好評を得ており、今後も、数多くの採用が予定されております。

また、自動車部品のモジュール化に対応して開発されたスタビライザリンクと、横ズレ防止用アルミリングを取り付けたスタビライザユニット、トラック用のエアサスペンションシステムの構成部品であるスタビリンカーも、国内・海外の自動車メーカーより注目され、高い評価を得ております。

懸架装置以外の分野では、金属ペローズを応用したアキュムレータがあります。すでにこの製品は、サスペンション、エンジン燃料噴射ポンプの脈動吸収用に使用されておりますが、さらに小型、軽量化製品を開発し、ブレーキ蓄圧用として量産納入を開始しました。

金属ペローズの応用製品はアキュムレータ以外にも、医療用途として人工心臓の熱交換システム用に使われるなど、さまざまな用途で採用されております。

シート部門

主な営業品目

自動車用シート、シート用機構部品(シートフレーム、リクライニング、安全部品)
および内装品(サンシェード、トノカバー)



高級乗用車用シート

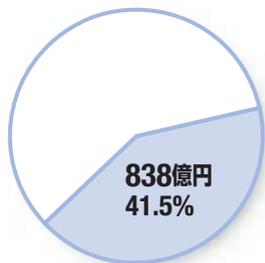


CRD (クッション・レストレイント・デバイス)



両側ロックリクライナ

シート部門の売上高・構成比



に属さず、国内各社の乗用車、商用車のシートをデザインから設計、生産、品質管理まで一貫したシステムで供給していることにあります。国内のみならず、北米、東南アジア、中国、台湾の海外7社の関連会社でも同様に、日系自動車メーカーを中心に高い評価を得ております。

また、自動車の快適な乗り心地・安全性向上・軽量化など、ユーザーのニーズにも応えております。

当部門は、徹底した品質管理と高い技術力があいまって、ユーザーに喜ばれる世界トップクラスの自動車用シートとサービスを提供しております。当部門の強みは、特定の自動車メーカーの系列

快適な乗り心地を追求した表皮一体成形シート、多機能なパワーシート、エアサスペンションシート、振動吸収ウレタンパッド、安全性を向上させた高強度両側ロックリクライナ付きシート、衝突時にシートクッションの中のストッパーパイプが跳ね上がり乗員の傷害を軽減させるCRD(クッション・レストレイント・デバイス)などを実用化し、国内外の市場で高い評価と信頼を得て自動車メーカーに採用されております。

さらに衝突時にヘッドレストが前方に移動することにより、乗員の鞭打ち傷害を軽減させるAHD(アクティブ・ヘッドレストレイント・デバイス)をはじめ、乗員の安全確保のため、シートの新しい安全装置の開発が完了しております。

一方、自動車用内装分野では、リヤウインドウ用で車内への直射日光を遮る電動サンシェードが高級車に採用され、カーゴネット、トノカバーなど快適性向上を狙った製品もあわせて、市場の拡大に努めてまいります。

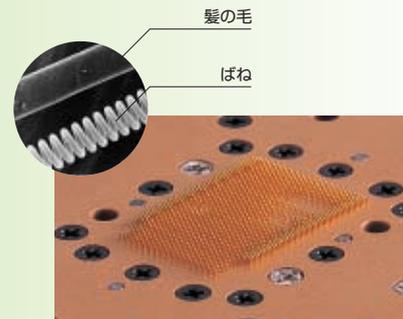
精密ばね部門

主な営業品目

HDD用部品（サスペンションおよび機構部品）、線ばね、薄板ばね、液晶・半導体検査用プローブユニット、精密接合品、精密加工品、応用機能ユニット



HDD用サスペンション「風魔」



マイクロコンタクタ

精密ばね部門の売上高・構成比



に組み込まれております。

これらの製品は、市場のニーズとたゆみない技術開発から生み出され、精度の高い材料・設計・加工技術を活かして生産され、国内外の市場で高い評価と信頼をいただいております。

中でも、HDD用サスペンションは、世界第2位の生産実績を誇っており、国内外のHDDメーカーに製品を供給しております。

現在、HDDはますます高速化、大容量化しており、主要部品であ

当部門の精密ばね（線ばね、薄板ばね）およびその応用機能ユニットは、自動車、二輪車をはじめとして家電製品、コンピュータなどの情報通信機器に至るまで、あらゆる分野の製品

るサスペンションには、より高い精度と品質が求められております。また、パソコンおよび情報家電の市場拡大により、HDD用サスペンションの需要増加が期待されます。このような環境のもとで、国内の生産能力増強を図るとともに、中国でのHDD用サスペンションの生産を目的とした香港法人を、平成15年12月に設立しました。当部門はたゆみなく新製品の開発に注力し、市場シェアの向上に努めております。

さらにHDD用部品のベース、カバー、クランプリング、キャリッジ部品の開発は日本で行い、量産は日本とタイ（NHKスプリング（タイランド）社）の2拠点で行っております。

また、電子機器の検査に使用されているマイクロコンタクタは、その小型化、高機能化の要求に対して、世界最小といわれる微細ばねを使い、ますます細かいピッチで対応できるようになりました。

今後、さらに成長の見込まれる分野で応用製品の拡大に努めてまいります。

産機・情報セキュリティ部門

主な営業品目

(接合・セラミック) ろう付製品、セラミック製品

(プラント) 産業用ばね機構品、配管支持装置

(パーキング) 駐車装置

(化成品) ポリウレタン製品

(電子部品) プリント配線板



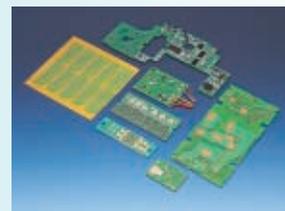
ろう付製品



駐車装置

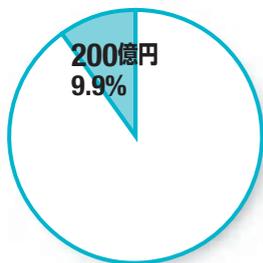


高密度薄物シート状ウレタン



金属ベースプリント配線板

産機・情報セキュリティ部門の売上高・構成比



(産機部門)

当部門は、当社のもつ各種技術を結びつけ、さまざまな分野のニーズに応える製品を提供しております。

接合・セラミック部門は、半導体製造装

置用の部品を、各種の金属接合技術を応用して生産しております。特に、当社で開発した独自のアルミ合金のろう付製品は、高い評価をいただいております。また、特殊セラミック製のヒータや絶縁部品を開発し、主に半導体製造装置に展開しております。

特品部門は、各種プラントに使用される配管支持装置の生産および解析業務、メンテナンス工事などで高い信頼を得ております。また、産業用ばね機構品は半導体業界を中心に需要が拡大しております。

パーキング部門は、二段・多段式駐車装置をシリーズ化し、主にマンション向けに納入しております。当社は事業の強化を図るため、販売、施工、メンテナンス部門を分社化しており、設計から施工、メンテナンスに至る総合技術は、業界でも定評がございます。

化成品部門は、防水機能を主とした特殊ウレタン製品を生産しており、幅広い市場で高い評価をいただいております。また、新製品の高密度薄物シート状ウレタンは、従来のHDD用ガスケットに加え、フレキシ印刷用クッション材、CMP研磨パッド材など、印刷分野、半導体分野での需要が拡大しております。

電子部品部門は、鉄、アルミなどの金属ベースプリント配線板のトップメーカーとしてマレーシアニッパツと連携し、グローバルな展開を行っており、ユーザーより高い評価をいただいております。また、アルミベースのプリント配線板は、放熱性や塑性加工性などの優れた特性を活かし、電源装置、自動車用電装部品などの用途に需要が拡大しております。

(情報セキュリティ) 偽造防止システム、偽造防止シール・タグ、警備端末機器、
アクセスコントロール機器、カードリーダー、設計支援ソフトウェア



FibeCrypt (ファイブクリプト) 株券



トラストグラム



アルタテックス

(情報セキュリティ部門)

当部門は、当社独自のセキュリティ技術を駆使して、警備防犯や偽造防止の分野を中心に事業を展開しております。

警備防犯分野については、偽造が困難な機械認識ホログラムシステム“VISCS” (ビスカス) の技術を応用した鍵と読み取り装置に加え、当期は非接触通信カードと読み取り装置が売上を伸ばしております。今後は、非接触通信技術市場の更なる拡大が予想されますので、警備防犯分野以外でも、当社の非接触通信技術応用製品の売上拡大が期待されます。

偽造防止分野については、特殊素材やホログラムを利用した技術による、有価証券や工業製品の真贋判定のためのシステムや製品を展開しております。

有価証券の偽造防止技術の一つとして、自社開発の特殊ファイバーを紙にすき込み、そのファイバーを専用センサーによって機械認識し

て、高速に大量の個別認識と真贋判定を行うシステム“FibeCrypt” (ファイブクリプト) があります。このシステムの特長を活かした株券システム“IOSAS” (イオサス) は当期も引き続きご利用いただいております。

主に工業製品の偽造防止技術として展開している、簡単なフィルターで真贋判定が可能なホログラムシール“トラストグラム”は、当期も大手企業の新規採用が続いており、売上も順調に推移しております。

さらに当期は、偽造防止繊維ラベル“ALTATTEX” (アルタテックス) を発表いたしました。これは、特殊繊維を用いる織込みタイプと特殊インクを用いる印刷タイプがあり、いずれもトラストグラム同様、簡単なフィルターで真贋判定が可能なネームラベルです。アパレル製品・バッグ・シューズなど幅広い分野より引き合いをいただいております。

これらの偽造防止技術は、市場で高い評価をいただいております。今後更なる需要の拡大と新規分野への参入を図っております。

海外部門



広州日弘機電有限公司

当部門は、海外進出先での経済発展への貢献、地域社会との融合を基本理念として積極的に事業を展開してまいりました。

世界の工場として、また、大規模市場として全世界から注目を集めている中国市場に、昨年、一昨年と主要客先の集中する華南地区に投資を行いました。懸架ばねを生産する広州日正弹簧有限公司、精密ばねを生産する広州日弘機電有限公司、コンピュータのHDD用サスペンションを生産するNATペリフェラル社の3社です。いずれも事業計画どおりに量産を開始し、事業計画以外の新規客先からの受注も順調に伸び、当初計画以上の堅調な伸びを示しております。

また、当社が海外拠点として初めて設立したNHKスプリング(タイランド)社は設立40周年を迎え、7月には客先、関係者を招待し盛大な式典を催しました。

今後も、当社は客先への世界最適供給を実現するため、10の国と地域にある26社の海外拠点をフルに活用し対応してまいります。

研究開発部門



光通信部品



金属繊維強化材



車載用レーザーダアクチュエータ

当部門は、次世代ニーズに基づいた基幹事業の展開と新しい事業分野の開発を目指して、基盤技術から新製品に至るまでの開発を積極的に推進しております。

近年、高速インターネットの普及で注目されている光通信部品分野は、新たに事業化を進めている分野の一つで、当社の光導波路型分岐器は通信業界での高い評価により現在、北米市場No.1のシェアを獲得するに至っており、さらに国内・海外での市場の拡大を図っております。

ITS(高度道路交通システム)分野では、メカトロニクス技術を開発した車載用レーザーダアクチュエータの乗用車の衝突防止装置への採用が開始され、今後の事業拡大が見込まれております。環境分野では、独自の成形技術に基づく機能性金属細線の事業化に向けて、エンジン部品強化材や耐熱フィルタ、燃料電池部品などへの用途展開を進めております。

また、金属材料技術、セラミック材料技術、高分子材料技術および接合技術など、基盤技術の強化も積極的に進めております。

単独情報

貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第85期	第84期	科 目	第85期	第84期
	平成17年3月末	平成16年3月末		平成17年3月末	平成16年3月末
(資産の部)	213,421	182,305	(負債の部)	128,021	115,587
流動資産	83,249	77,272	流動負債	83,655	82,890
現金及び預金	4,736	6,147	支払手形・買掛金	51,339	39,684
受取手形・売掛金	54,120	49,175	短期借入金	12,795	29,948
棚卸資産	10,922	9,308	一年内償還社債	4,000	—
その他	13,757	12,735	その他	15,520	13,257
貸倒引当金	△287	△95	固定負債	44,365	32,697
固定資産	130,172	105,033	社債	—	4,000
有形固定資産	56,867	55,523	長期借入金	21,140	13,175
建物・構築物	22,817	23,328	繰延税金負債	7,845	—
機械装置	16,930	15,322	退職給付引当金	15,379	15,521
土地	12,587	12,736	(資本の部)	85,400	66,718
建設仮勘定	1,340	1,342	資本金	17,009	17,009
その他	3,191	2,794	資本剰余金	17,295	17,295
無形固定資産	2,194	1,727	資本準備金	17,295	17,295
投資その他の資産	71,110	47,781	利益剰余金	29,490	24,355
投資有価証券	54,485	31,141	利益準備金	3,633	3,633
子会社株式	12,951	12,834	任意積立金	4,565	4,691
その他	3,722	3,888	当期末処分利益	21,291	16,030
貸倒引当金	△48	△82	株式等評価差額金	22,099	8,459
資産合計	213,421	182,305	自己株式	△495	△402
			負債及び資本合計	213,421	182,305

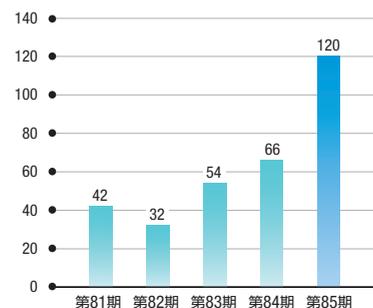
売上高

(億円)



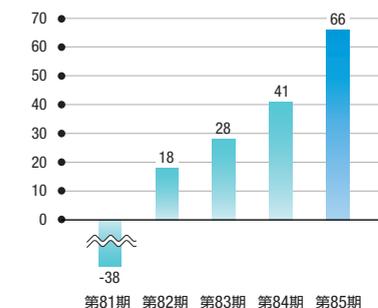
経常利益

(億円)



当期純利益

(億円)



損益計算書

(単位:百万円)

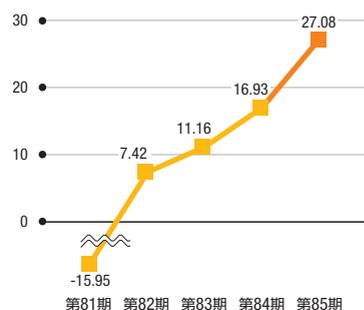
科 目	第85期	第84期
	平成16年4月～ 平成17年3月	平成15年4月～ 平成16年3月
売上高	202,319	172,566
売上原価	176,185	151,182
販売費及び一般管理費	15,783	14,771
営業利益	10,350	6,611
営業外収益	3,675	2,640
営業外費用	1,958	2,592
経常利益	12,068	6,660
特別利益	849	721
特別損失	2,778	1,083
税引前当期純利益	10,139	6,298
法人税、住民税及び事業税	4,950	4,080
法人税等調整額	△1,497	△1,978
当期純利益	6,686	4,197
前期繰越利益	15,333	12,558
中間配当額	728	725
当期末処分利益	21,291	16,030

利益処分

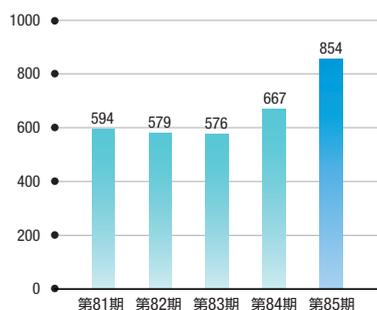
(単位:百万円)

科 目	第85期	第84期
	平成17年3月期	平成16年3月期
当期末処分利益	21,291	16,030
任意積立金取崩額	173	168
計	21,464	16,199
利益処分量		
利益配当金	728	728
役員賞与金	111	94
(うち監査役分)	(12)	(11)
任意積立金	40	43
計	879	866
次期繰越利益	20,584	15,333

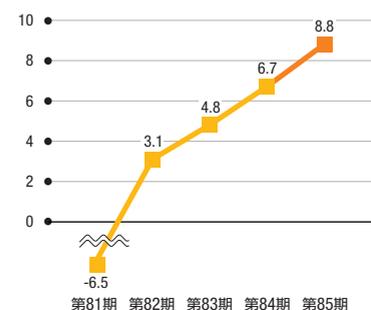
EPS (一株あたりの当期純利益) (円)



株主資本 (億円)



ROE (株主資本利益率) (%)



連結情報

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第85期	第84期
	平成17年3月末	平成16年3月末
流動資産	129,352	117,671
固定資産	173,854	148,784
資産合計	303,207	266,456
流動負債	132,518	126,127
固定負債	60,909	49,376
負債合計	193,428	175,504
少数株主持分	9,073	7,338
資本金	17,009	17,009
資本剰余金	17,298	17,298
利益剰余金	46,902	43,385
土地再評価差額金	40	40
その他有価証券評価差額金	22,703	9,099
為替換算調整勘定	△2,663	△2,728
自己株式	△586	△489
資本合計	100,705	83,614
負債、少数株主持分及び資本合計	303,207	266,456

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第85期	第84期
	平成16年4月～ 平成17年3月	平成15年4月～ 平成16年3月
売上高	334,704	280,950
売上原価	284,607	237,490
販売費及び一般管理費	32,294	30,212
営業利益	17,802	13,247
持分法による投資利益	1,511	868
その他営業外収益	2,527	2,109
営業外費用	2,704	3,518
経常利益	19,136	12,706
特別利益	1,026	1,082
特別損失	2,664	2,080
税金等調整前当期純利益	17,498	11,708
法人税、住民税及び事業税	7,039	5,704
法人税等調整額	△158	△1,637
少数株主利益	1,629	730
当期純利益	8,986	6,910

連結キャッシュ・フロー計算書

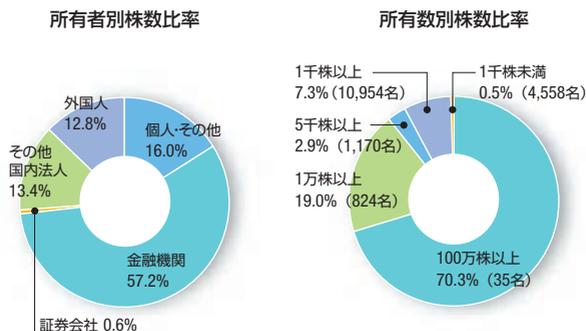
(単位:百万円)

科 目	第85期
	平成16年4月～ 平成17年3月
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,856
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,049
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,310
現金及び現金同等物に係る換算差額	△26
現金及び現金同等物の増減額	△530
現金及び現金同等物期首残高	13,228
新規連結子会社の現金及び現金同等物期首残高	618
現金及び現金同等物期末残高	13,315

株式の状況 (平成17年3月31日現在)	
発行する株式の総数	600,000,000株
発行済株式総数	244,066,144株
株主総数	17,541名

大株主 (平成17年3月31日現在)		
株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
三菱信託銀行 退職給付信託 大同特殊鋼口 共同受託者 日本マスタートラスト信託銀行(株)	30,892	12.7
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	26,548	10.9
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	20,284	8.3
双 日 (株)	11,343	4.6
(株) メ タ ル ワ ン	11,118	4.6
みずほ信託退職給付信託神戸製鋼所口 再信託受託者資産管理サービス信託銀行(株)	9,504	3.9
みずほ信託退職給付信託みずほコーポレート銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託銀行(株)	5,753	2.4
(株) 横 浜 銀 行	5,564	2.3
(株) み ず ほ コ ー ポ レ ー ト 銀 行	5,002	2.0
三 菱 信 託 銀 行 (株)(信託口)	3,092	1.3

株式の分布状況 (平成17年3月31日現在)



中間配当

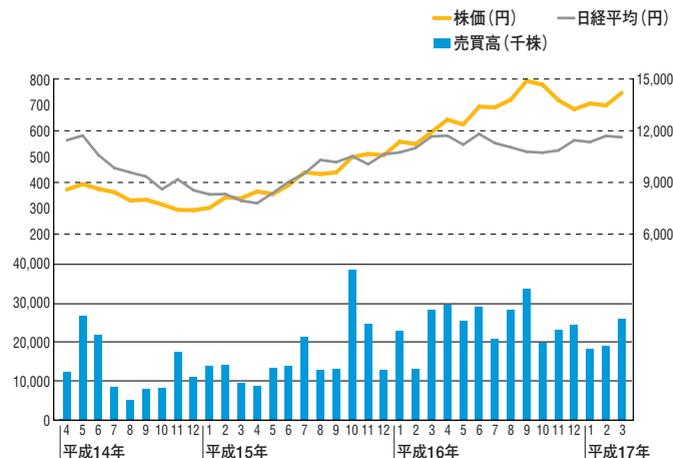
平成16年11月18日開催の取締役会の決議に基づき、同年12月7日、1株につき3円の中間配当を実施いたしました。

取締役・監査役 (平成17年6月29日現在)			
代表取締役社長	佐々木 謙二	常勤監査役	藤田 一彦
代表取締役副社長	河村 公二	常勤監査役	三宅 洋
代表取締役副社長	宮田 忠男	監査役	奥村 博司
取締役専務執行役員	鈴木 啓一	監査役	和田 譲治
取締役専務執行役員	天木 武彦		
取締役専務執行役員	石川 隆重		
取締役専務執行役員	長澤 國雄		
取締役専務執行役員	布施 武		

執行役員(取締役兼務者を除く) (平成17年6月29日現在)

専務執行役員	池田 勝一	執行役員	齋藤 哲夫
専務執行役員	大森 義憲	執行役員	原 章一
常務執行役員	佐々木 晃一	執行役員	安田 滋
常務執行役員	山口 努	執行役員	糸井 孝夫
常務執行役員	長瀬 悠一	執行役員	塩田 和男
常務執行役員	永田 正男	執行役員	鈴木 和巳
常務執行役員	木村 雅彦	執行役員	河久保 光茂
執行役員	野口 昌美	執行役員	嘉戸 広之
執行役員	玉村 和己	執行役員	梅林 彰
執行役員	山崎 章		

当社株価・売買高の推移



株主メモ

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1. 基準日 | 毎年3月31日
その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。 |
| 2. 配当金受領株主確定日 | 毎年3月31日および中間配当を行う場合は9月30日 |
| 3. 名義書換代理人 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
UFJ信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱場所 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 同事務取扱所
(お問い合わせ先) | 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711(通話料無料) |
| 同取次所 | UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 |
| 4. 公告掲載新聞 | 日本経済新聞 |
| 5. 貸借対照表および損益計算書
掲載のホームページアドレス | http://www.nhkspg.co.jp/ir/index.html |

会社概要

- | | |
|------------|---|
| 設立 | 昭和14年(1939年)9月8日 |
| 資本金 | 170億956万6,312円 |
| 従業員数 | 3,781名 |
| 本社 | 〒236-0004 横浜市金沢区福浦三丁目10番地
電話 (045)786-7511 |
| ホームページアドレス | http://www.nhkspg.co.jp/ |
| 分館・分室 | 東京分館/横浜分室 |
| 支店 | 北関東/浜松/名古屋/大阪/広島 |
| 営業所 | 福岡 |
| 工場 | 横浜/群馬/厚木/伊勢原/伊那/駒ヶ根/豊田/滋賀/野洲 |
| 海外事務所 | イギリス/スペイン |
| 国内関連会社 | 24社 |
| 海外関連会社 | 26社 |